

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300276		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインわたらせ		
所在地	群馬県桐生市元宿町2115-1		
自己評価作成日	平成26年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成27年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の散歩を日課とし、季節の移り変わりを感じ、また地域の方と交流を図る。下肢筋力低下を防ぐ等の目的で行っている。
 ・調理や洗濯、食器洗い、洗濯物たたみ等これまで行ってきた事を一緒に行って頂く事で役割を持ち、職員と利用者様とのコミュニケーションの時間になりより信頼関係を深めるきっかけにもなっている。
 ・同法人内の施設でイベントがある際は疑似通貨を使って招待しあい季節ごとにイベントを行い交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、利用者の担当職員が、写真にコメントをつけたその人だけの「わたらせ便り」を作成して家族に送付し、コミュニケーションの輪を広げている。事業所は開設まもないことから、地域との絆作りに力を注ぐなか、地元有志による「災害時地域協力隊」が結成され、市指定の地域介護福祉避難場所としての機能強化に結びついている。また、毎日の生活のうえで大切な食事の提供は、法人内の配食サービス部門と毎月給食会議を開き、きめの細かい改善対策が行われている。法人内の施設でイベントがある際には招待しあい、法人内で流通可能な疑似通貨「コムチケット」を使って、イベント参加や買い物ができるようにし外出支援の機会作りに役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で「どんな介護をしていきたいか」から考え、全員で作ったり、常に問題があった時に話し合っている。	理念は、開設時職員全員で相談して作成された。日々のケアや、毎月のミーティングで「和やかで楽しく笑いあえる」事業所づくりに向けての理念の確認に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で挨拶を交わし、イベントや防災訓練の際は一軒一軒利用者とお知らせをし参加して頂いている。また、花や柿など自宅で採れたものを頂いている。育成会の古紙回収に協力している。介護が必要な方の相談にもものっている。	開設前から問い合わせがあるなど、地域の受け入れ姿勢があり、行事案内の近隣への配布にも地域の方が同行してくれ、多くの方の参加が実現している。日常の交流のなかでも、町会役員や民生委員から気軽に介護の相談がもたらされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通りすがりに相談して下さった方には実際に室内を見て頂きお茶を一緒に飲んだり、イベントに來設された際にお話を伺いお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や行事予定等を報告、またご意見を頂き地域の行事やボランティアの紹介などもある。 管理者よりミーティング時の報告や報告書の掲示をして会議の内容を参考にしている。	会議では、事業所の活動状況や利用者の様子等が報告される。慰問・ボランティア、災害時地域協力委員の依頼、自衛防火訓練等について双方向的意見交換をし、有意義な会議となっている。	会議録は事業所内に掲示されているが、特に家族には会議録を配布するなど、一層の協力が得られるよう検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、また問題点の相談・指導等受けている。 ケアサポーターの受け入れも申請してある。	市の窓口には、更新時や空き状況等、通常の業務で訪問しているが、今回、市指定の「高齢者ケアサポーター」受け入れ事業所に認定され、さらに連携の幅が広がることが期待されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。代替ケアについて職員全員で話し合いをして実行している。 玄関は夜間を除き、常にオープンになっている為、自由に出入りできる。 言葉による拘束も行わないよう注意している。	床に布団・解錠してウッドデッキ等への出入り自由・きちんと腰かけることでのずり落ち軽減等、まず拘束しない・抑制しないことを前提に、あらゆる場面での見守りや工夫への努力が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時以外にも日頃から観察を行い注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度申請した方がいる。 申請時、主治医に状態を説明したり家族の相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人、ご家族に見学して頂き疑問点、不明な点等に答え理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員が直接お話を伺いミーティングで話し合い運営会議の議題にしている。	面会時の情報交換や、年に2回の家族交流会での行事の感想を集約するアンケート調査など、多くの意見・要望を必要に応じて、理事長はじめ各事業所責任者で構成されている法人の運営会議にも提案され、実現に向けての検討・協議が行なわれている。	事業所として運営に関する意見・要望等を聴取する機会作り・場作りを検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回法人代表との運営会議があり、現場で毎月1回行うミーティングで出た意見を伝え話し合っている。	人事考課制度による自己評価・他者評価とは別に、その年の各自の「チャレンジ目標」を掲げ、管理者との面談が行なわれている。青葉会(職員組合)では時間休暇や職種別の制服の実現など、主に処遇改善に向けての話し合いがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、職員がチャレンジシートを書き、前年の反省、翌年の目標を考えたり就労意向調査もある。 職員組合があり月に1回のミーティングで要望を話し合い法人代表との会議に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所のボードに随時案内が掲示され、職員が自由に参加出来るようになっている。 同法人の看護師や薬剤師による勉強会も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会主催のレベルアップ研修に参加し他施設へ研修に行ったり、受け入れを行っている。 また、参考点をミーティングで発表し取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时、入所時に直接ご本人に不安な点、希望等を聞いている。 入所後もコミュニケーションを図り、信頼関係を築くよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の希望があった際はご本人、ご家族様に面談、見学を行ってもらい詳しくお話をきいている。 自宅訪問も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が対応し、お話を伺った上で適切だと思われるサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から感謝の気持ちを忘れず、個人を尊重している。掃除や調理など教えて頂きながら一緒に行い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご本人の日頃の様子を伝え、また月に1回「わたらせ便り」を担当職員が作成し、各ご家族にお知らせをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方の面会や電話を受け入れており、家族以外の方の面会はその都度ご家族に連絡を入れている。	利用者の半数の方が近隣からなので、知人等多くの来訪者がある。日々の散歩で近くの神社や商店に行くなど、馴染みの場所の把握に努めている。来訪者については家族と話し合い、家族の意向を重視した対応をとっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出等、利用者様同士で関わりあえるような機会を設けているが、席の配慮や無理強いをしないようご本人の意思を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、利用者様と一緒に面会、お見舞いに行っている。 数年前に同法人のグループホームを利用して下さった利用者様のご家族から今でもお花を頂き飾らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、その方の生活歴やこだわり等を伺い、入所後もそれまでの生活を継続できるように努めている。	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや希望、意向を確認している。言葉で思いを伝えられる利用者が多いが、表情や態度などのサインも見逃さず、真意の把握に努めている。絵の好きな人を移動美術館に誘ったり、外出重視の気晴らし支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族に生活歴やこれまでの暮らし方を聞き、申し送りノートやミーティングで全職員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時のご本人の意思を尊重し散歩に行ったり、草むしりを行ったりと自由に過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスで話し合い毎月担当者とケアマネージャーが相談してモニタリングを行っている。	介護支援専門員は本人・家族の希望を聞き、課題を把握し、介護計画を作成している。また、毎月利用者の担当職員とモニタリングを行い、プラン見直しに繋げている。申し送りノートはあらゆることを記載し共有することで、日々のケアの補完に役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日誌がありケアプランと一緒に保管している為いつでも確認できケアプランに沿った記録をしている。 申し送りノートを活用して情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて同法人の病院や施設が利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや催し物に参加、また地域の方をお誘いして防火訓練やイベントに参加して頂いている。 近所の保育園児の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医がすべての利用者様にいる。2週間に1回往診があり、随時、職員が受診介助を行っている。 体調不良などの際はかかりつけ医へ状態をFAXにて報告を行っている。	ほとんどの利用者が母体の協力医をかかりつけ医として、月2回の訪問診療を受けている。眼科等他科への受診にも家族とともに職員が同行して、利用者の様子を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護が来設しバイタル測定と状態を診てもらっている。 夜間の急変時にも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	勉強会で訪問看護師によるターミナルのお話を聞き学ぶ機会があった。 まだターミナルは受け入れていない。	現在ターミナルの状態にある方はいないが、主治医・職員はターミナルケア実施についての了解がなされていることから、家族の希望等を聞くなかでの、関係者との具体化に向けての協議が進んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力により救命救急講習を職員全員が受講している。 ※AEDの講習も実施され受講している。マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々には呼びかけ、消防所協力による消防訓練を行っている。 地域の方々にも参加頂いている。	消防計画に基づき第1回の避難訓練を消防署指導のもと実施し、第2回目を春に予定。これとは別に独自の訓練も検討中。地域有志による「災害時地域協力員」が結成されるとともに、法人の各事業所が市の介護福祉避難所と指定されていて、地域ぐるみの体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意思、判断を大切にまた人生の先輩として尊重し苗字に「さん」付けをし失礼のない声掛けを心掛けている。 個人ファイルは目に付かない所に保管してある。	利用者を人生の先輩として、あらゆる場面で尊厳・誇りを損ねることのないよう努めている。特に入浴時に他の利用者と同室にならないよう、また、居室での着替えやトイレ使用時の心遣いなど、羞恥心へ配慮した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ワンフロアの為、話しにくそうな様子が見られた際は居室や入浴時等、マンツーマンの状態でお話を伺う様に心掛けている。食事形態や入浴準備の際などその都度声掛けをしご本人の希望を伺う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、その方の気分や体調を伺い、散歩や体操、買い物を行っており強制することはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時季節や天候に合わせて好みの服を着て頂いている。ご本人、ご家族の希望に合わせて男性の方には髭剃りをこまめに援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回、手作りメニューの日を設けメニューを決め買い物、調理まで一緒に行っている。毎食時テレビを消して音楽を流し、ゆったりと会話を楽しみながら職員も一緒に食事をとっている。	献立・食材については、法人内の配食部門が行い、毎月事業所と給食会議のなかで改善策に取り組んでいる。週2回の手作りメニューと行事食は、買い物・調理を利用者と一緒に行なっている。今後は、手作りメニューの回数を増やしていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フロアにお茶を常時用意してあるため好きな時にお茶が飲める。また、10時、15時にも希望の飲み物を提供している。あまり水分を取らない利用者様にはお茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の能力に応じて口腔ケアを行っている。 毎週1回義歯の消毒も行っている。必要に応じて歯科受診の介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア表、個人日誌に記録を残し排泄パターンを観察するようにしている。それに合わせてトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表や各自の排泄パターンを参考に、トイレ誘導を行なっている。紙パンツ・パットや夜間のみオムツ利用等、本人に合わせてトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷水を飲んで頂いたり毎日体操、散歩を行っている。 手作りメニューの際も好みを伺うだけではなく栄養バランスを考えた食事を提供できるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマンで対応し、ゆったり入浴できるように配慮している。気分の乗らない方は入浴の順番を変更する。それでも無理そうな時などは時間や日を変えたり足浴などを行っている。	週2回の入浴を原則としているが、本人の希望で柔軟に対応している。入浴中は本人のできる事は行ってもらい、職員と会話を交わすなど時間を過ごしている。入浴を拒む利用者には散歩の流れで誘導するなど、無理のない支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操、レクリエーションに参加して頂き体を動かしている。目が覚めてしまった方やなかなか寝付けない時などはお茶を提供し話し相手になり安心して休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を申し送りノートに貼ったり、その都度申し送りノートに記載し、全職員が把握できるようにしている。服薬ミスを防止する為、職員間でダブルチェックを行い、内服時利用者に薬袋の名前の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の能力もふまえて声掛けをし食事の用意や掃除等嬉しい役割を持って頂いている。手作りメニュー等買い物がある時は気分転換もかねて一緒に出掛けて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を毎日行っており、それ以外の時間でも希望がある際は対応している。 駐車場周辺の枯葉集めや草むしりを行って下さる方もいる。 友人や親戚と花を見に出掛けた方もいる。	天候を考えながら、毎日の散歩を心がけている。事業所周辺や近隣の神社・水源地など季節感を大切にいつでも出かけ、家族の了解のもと知人と外食に行くこともある。また、法人内の事業所の運動会、さんまの会、カラオケ等の催し物への外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもとお金を所有している方が数名おり買い物希望の方には職員が付き添い、ご自分で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方と電話希望、着信があった際には利用して頂いており、また手紙も一緒にポストまで行き投函してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房フロアがあり天井が高く、またガラス一面の窓の為、季節の移り変わりや道路に面しているので人々と行きかう姿などが見える。その為、外の様子も見ることが出来る。玄関やフロアに手作りの飾りが飾ってある。	玄関ロビーに紙製の門松や絵馬が飾られ、食堂兼居間などの共有空間も正月の雰囲気となっている。次は節分と、一年の各催し物飾りが用意され、季節を忘れない支援が行われている。また、入居前に絵画制作をしていた利用者の作品があちこちに飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの外にウッドデッキがありいつでも過ごせる事が出来るようになっている。また、玄関にも椅子があり靴の着脱時以外にも日光浴等で過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、ご本人、ご家族に説明し持ち込み可能であることを伝えている。鏡台や炬燵が持ち込まれている。	居室は寝室と位置づけ、テレビ・机等利用者が持ち込んだものが配置されてはいるが、シンプルで落ち着いた部屋となっている。入口のドアには門松が印刷された紙片と羽子板が飾られ、華やいだ雰囲気作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のネームプレートと一緒に作り認識しやすいようにしてある。 廊下、玄関、浴室に手すりがある。 台所から居室やフロアが見渡せる。		